

祈禱書の、教会問答 7 に、「聖書とはなんですか」という質問があります。その答えはこのようになっています。

古い契約の民にゆだねられた神のみ言葉を書き記した旧約聖書と、イエス・キリストによって啓示された神の永遠の目的を書き記した新約聖書から成っており、救いに必要なすべてのことがここに記されています。(祈禱書 259 頁)

聖書は旧約聖書 39 巻と新約聖書 27 巻からなっており、旧約聖書は主にヘブライ語(一部アラム語)で、新約聖書はギリシア語で書かれています。旧約聖書は紀元前 10 世紀からイエス様誕生までに、新約聖書は多くが紀元 1 世紀に書かれたとされます。

日本語の聖書には、日本聖書協会が発行している「聖書協会共同訳」「新共同訳」などの他、「フランシスコ会訳」「新改訳」「リビングバイブル」「岩波訳」や個人訳など、様々な種類があります。

また聖書の中には、「旧約聖書続編つき」というものもあります。「旧約聖書続編」はカトリック教会では第二正典とされ、聖公会では「生活上の模範と道徳上の教訓のために読むが、それらを典拠としていかなる教義をも定めることはしない」と定めています。聖公会の礼拝では読まれることもありますので、聖公会の信徒の方は「続編つき」聖書を購入されることをお勧めします。(多少分厚いですが)

なお、「旧約」「新約」の「約」という字は、翻訳の「訳」ではなく、契約の「約」です。つまりイエス様の出来事によって、神さまとわたしたちとの契約が更新され、新たになったということです。

だからといって、新約聖書だけを読めばいいということではありません。旧約聖書にある神さまの思いや人間の姿を顧みること、わたしたちに与えられた大きな愛に気づくことができるでしょう。

次回は「正典」です。お楽しみに。



「ナザレの会堂で教えるキリスト」
ヘルブラント・ファン・デン・エークハウト
(1621 - 1674 年)

イエスはお育ちになったナザレに来て、いつものとおり安息日に会堂に入り、聖書を朗読しようとしてお立ちになった。

(ルカによる福音書 4 章 16 節)

